

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 45号

2013/04/22 発行
株式会社 立花商店
生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：4カ月ぶりの高値更新など引き続き相場上昇が続いている状況

①週最高：LDN 市場£1,555 / NY 市場\$2,333 (4月10日)	先週比 LDN+£51/NY+\$75
②週最低：LDN 市場£1,505 / NY 市場\$2,267 (4月8日)	先週比 LDN+34/NY+\$82
週内差額 (①-②)：LDN 市場£50 (傾向↑) / NY 市場\$66 (傾向↑)	

【4月15日(月)】ニューヨーク、小反落、ロンドンは続伸
ニューヨーク市場の7月きりは小反落し、1ドル(0.04%)安の**2267ドル**で引けた。テクニカル要因に基づく、先週、上値抵抗線の2200ドルを突破して以降、より強気となっている。
ロンドン市場の7月きりは続伸し、1ポンド(0.07%)高の**1505ポンド**で終了。

【4月16日(火)】ロンドン、4カ月ぶり高値、NYも反発
ロンドン市場のココア先物は4営業日続伸し、4カ月ぶり高値を付けた。チャートに基づく買いに主導され、200日移動平均を上抜けた。
ロンドン市場の7月きりは、過去6営業日で7%上昇。100日移動平均を前週に上抜けたほか、200日移動平均の1536ポンドも一時的に突破した。
7月きりの終値は、28ポンド(1.9%)高の1533ポンド。一時は1539ポンドと、2012年12月以来の高値を付けた。ニューヨーク市場の7月きりは反発し、49ドル(2.2%)高の2316ドルで終了した。100日移動平均の2244ドルを上抜け、200日移動平均の2343ドルに接近した。

【4月17日(水)】両市場とも一時4カ月ぶり高値
第1四半期の欧州カカオ豆圧砕高統計が事前予想とほぼ一致する内容だったことを受けて、ロンドン市場とニューヨーク市場の7月きりがともに、一時昨年12月以来4カ月ぶりの高値まで上伸した。
ロンドン市場の7月きりは一時1556ポンドと2番ぎりとしては昨年12月以来の高値まで上伸。終値は10ポンド(0.7%)高の1543ポンドだった。ニューヨーク市場の7月きりも一時2337ドルと、昨年12月以来の高値を付けた後、1ドル高の2317ドルで終了した。

欧州ココア協会（E C A）が17日朝に発表した第1四半期の欧州圧砕高統計は前年同期比3.9%減の33万9377トンだった。A B Nアムロ・マーケットのジャスティン・グランディソン氏は、「(圧砕高統計は) 事前予想と一致する内容で、寄り付きには条件反射的な動きはなかった」と指摘した。

【4月18日（木）】ほぼ横ばい＝北米圧砕高控え様子見

両市場ともほぼ横ばい。第1四半期の北米ココア圧砕高統計の発表をこの日の取引後に控え、様子見気分が強かった。

ニューヨーク市場の7月きりは2ドル高の2319ドルで終了。前日は4カ月ぶり高値となる2337ドルまで上げていた。

ロンドン市場の7月きりは変わらずの1543ポンド。2日連続で200日間移動平均を上回った。

この日は前日の高値を受け、両市場とも値固め局面となったものの、いずれもチャート上は強気のサインが出ており、これが支援材料となった。

圧砕高統計は前年同期比で1%減から1%増と、ほぼ変わらないと予想されている。第1四半期の欧州ココア圧砕高統計は前年同期比3.9%減、マレーシアの圧砕高は同3.2%減だった。

【4月19日（金）】両市場とも上昇

両市場とも上昇し、一時4カ月ぶりの高値を付けた。第1四半期の北米ココア圧砕高統計が予想を上回り、需要拡大を示したことに支えられた。

ニューヨーク市場の7月きりは14ドル（0.6%）高の**2333ドル**で終了。一時4カ月ぶりの高値となる2348ドルと、200日移動平均となる2353ドルに迫った。第1四半期の北米ココア圧砕高統計が予想を上回り、6%近く増加したため。

ロンドンを拠点とするブローカーは、「(統計が) 市場にとって少しサプライズとなった。5%以上増加すると予想していた人は多くなかった」と話した。欧州ココア圧砕高は前年同期比3.9%減、マレーシアは同3.2%減。

7月きりの14日間相対力指数（R S I）は、86.5と買われ過ぎを示す状態。ディーラーらによると、投資家らはショートポジションをカバーし、利益を取りに回っている。ロンドン市場の7月きりは、12ポンド（0.8%）高の**1555ポンド**で終了。一時は昨年12月以来の高値となる1558ポンドを付けていた。

2、12~13年度の国際カカオ豆市場、若干供給過剰に＝将来は供給不足一オラム担当者(4/18)

シンガポールの商品商社オラムでカカオ豆取引を担当するゲリー・マンレー氏は、2012~13年度の国際カカオ豆市場について、西アフリカでの増産に伴い若干の供給過剰になるとの見通しを示した。ただ、相場安により投資が刺激されないため、将来は供給不足になると警告した。

同氏はこれまで、12~13年度の供給不足を予想していたものの、主産国コートジボワールの好天を踏まえて見通しを修正。英紙フィナンシャル・タイムズの世界商品サミットが開かれたスイスでロイター通信に対し、「今年度は若干の供給過剰になり、価格は1420~1600ポンドの取引レンジの底に向かうだろう」と語った。その上で、同氏は「問題は、時価水準ではカカオ豆生産が刺激されない点にある。これに取り組まない限り、大規模な構造的供給不足に陥るだろう」と述べた。

3、コートジカカオ豆着荷数量が4月21日現在で1,064,000トンに。(4/22)

世界最大のカカオ豆生産国であるコートジの港への集荷数量が10月のシーズン開始から4月21日までの合計で1,064,000トンに達したことが輸出業者の報告で明らかになった。昨シーズンの同期間の集荷数量は1,078,000トンであった。

輸出業者の情報によると、コートジの主要な二つの港であるアビジャン港とサンペドロ港に集荷されたカカオ豆は4月15日～3月21日間の1週間で15,000トンで、昨シーズンの同じ1週間の集荷数量の13,000トンより多い数字であった。

4、北米の第一四半期カカオ豆磨砕数量は前年対比5.77%の上昇(4/18)

北米の第一四半期のカカオ磨砕数量の統計が4月18日に発表され、前年対比5.77%上昇の125,887トンであったことがNational Confectioners Association (=NCA)の発表で判明した。

この結果は、前年対比±1%の範囲に収まるだろうとしてしていた事前予測を大幅に上回るものとなった。

5、欧州の第一四半期カカオ豆磨砕数量は前年対比3.9%の減少(4/17)

欧州の第一四半期のカカオ豆磨砕数量は前年対比3.9%の減少で339,377トンとなったことがブリュッセルに本部を置くEuropean Cocoa Associationの発表で判明した。

この数字は、トレーダー筋の事前予測の1~5%の減少という範囲内であり、磨砕業者の利益が少ない状況が続いていることが一部に影響を与えていると考えられている。

磨砕数量は、需要を示す指標であるが、今期まで5四半期連続で前年対比の減少が続いている。

尚、欧州の2012年間の磨砕数量では前年対比10.3%の減少であった。この背景には、磨砕業者が製造しても利益が取れないことを理由に生産を一部停止させる等、生産調整が行われたことで第二四半期、第三四半期では15%以上の減少となったことなどがあった。

6、アジア市況：バターレシオは過去四年の最高値付近、パウダーは価格弱含み

- ・バターレシオはロンドン市場に対して1.92
- ・チョコレートメーカーの在庫は底をつきつつある。

アジア市場でのココアバターは、チョコレートメーカーの在庫が終了し、再度買付けを開始したことや、ココアパウダーの価格が下落していることを受けて、金曜日には過去4年の最高値のレシオ付近で取引された。

ココアバターの価格は、ロンドン、NYの国際相場に需要の指標であるレシオを乗じて算出されるが、2週間前の1.75レシオから今週は1月につけた過去四年の最高値である1.95-1.98レシオに近い1.90-1.92レシオでの取引がされた。

『現時点では、市場に販売希望の会社は多くはない。キーポイントは、パウダー価格の動向で、今のところ価格が下落していて、中には投げ売りをしようとする会社もあるようだ』シンガポールのトレーダーは言う。

『アジア市場の需要はまだまだある。しかし、問題はいつ需要者であるチョコレートメーカーが買付け

を開始するかという点で、彼らの在庫もそろそろ底をついてきている』

ココアパウダーは、現在\$2200-\$2400/トンでオファーされており、2週間前の\$2500-\$2600/トンからは下落している。

7、欧州市況：磨砕数量の統計が買付けを喚起し、バターレシオは上昇中

トレーダー筋の情報では、前向きなカカオ豆磨砕数量の統計が出たことが、ココアバターの新規買付けを促進させ、これにより今週はバターのレシオが急激に上昇している。

『今週、前向きな各地域の第一四半期のカカオ豆磨砕数量統計が発表された後に、急に2013年の全てのポジションでココアバターの買付け依頼が増加した』あるトレーダーは言う。『いくつかのバイヤーはココア相場の下値に既に到達したと予測したようだ』

8月・9月荷渡しのココアバターのレシオは先週の1.89から現在は1.98まで上昇した。

カカオ豆相場は、北米の第一四半期のカカオ豆磨砕数量が当初の予測を大幅に上回る数値であったことを受けて、金曜日に過去4カ月の最高値付近に達した。この磨砕数量の数字はカカオ豆をバターとパウダーに加工した数量を示しており、製菓業界ではカカオ製品に対する需要を判断する為の重要な指標として捉えられている。

『北米の磨砕数量の上昇は、これまでの長い期間常に前年対比で減少がつついていた磨砕数量が上昇傾向に転じる転換期になったことを示しているかもしれない』トレーダーは言う。『いくつかのバイヤーはカカオ相場が底を打ったと判断して、今週ココアバターを今後の上昇を見込んで多めに買い付けた』

『また、この突然のバター需要は昨年より欧州の磨砕工場が生産調整をしていた後でココアバターの供給がまだ少ない状況の中で生じた』とトレーダーは話している。

一方、欧州市場のココアパウダーの4月・5月荷渡しの価格は今週金曜日には2,100ユーロ/トンでオファーされており、先週の2,200ユーロ、2012年末の2,500ユーロから、下落し続けている。

今週の関連ニュース)

「5項目全て」は困難＝例外獲得で厳しい交渉—T P P (4月22日)

環太平洋連携協定(T P P)交渉に途中から飛び込む日本は、コメなど農林水産分野の重要5項目で、関税撤廃の例外措置を獲得することを目指す。しかし、ニュージーランドなど先行交渉国は原則100%の関税撤廃という高いレベルの自由化目標を設定。T P Pが大幅な例外措置を容認する「2流」の自由貿易協定(F T A)に変質しない限り、5項目全てを例外扱いにする目標は現実味が乏しく、日本は厳しい交渉を強いられる。

日本が例外措置の確保を目指すのは1)コメ 2)麦 3)牛肉・豚肉 4)乳製品 5)甘味資源作物(砂糖・でんぷん)の5項目(関税分類上は約580品目)。衆参両院の農林水産委員会は、重要品目を関税撤廃の対象から外す「聖域」が確保できないと判断した場合、交渉からの脱退も辞さないよう政府に求める決議を採択した。ただ、5項目の全品目を例外にすれば、日本の自由化率は93%台にとどまる見込みだ。5項目などの聖域確保を最優先とすることは自民党も決議。安倍晋三首相は交渉参加を決断した際、「党の決

議を胸に強い交渉力をもって結果を出していきたい」と強調した。林芳正農林水産相は「聖域を確保するよう全力を尽くす」としているが、関税の撤廃や引き下げを迫られる重要品目が出てくる事態は避けられない公算が大きい。

***特徴的なチョコレートを毎週ひとつ取り上げて紹介する『今週のチョコレート』を別添にて毎週配信しております!!こちらも何卒、ご愛読頂きますようお願い申し上げます。**

*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5783-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp